

短い文章や語句の一部に使われている場合などでは、第1カギを使うこともできるが、同じ問題の中に第1カギが使われていないことが条件である。

<例> 見舞いにこようと思う ミマイニ コヨート オモウ

一重線、二重線、波線など、いろいろな傍線・下線を使ってあっても、その前に付けられた番号や記号で区別し、すべて第3指示符で統一しても差し支えない。

どうしても別な符号を使わなければならない時には、第2指示符を使います。

語句を強調するために用いられていて、設問との直接的な指示関係がない場合は、第1指示符を用います。

第3指示符の内側に、第1カギが接する場合は、その間を1マスあける。

と三つも続いて、区別がつかないからです。

英文中では、開き符号の最後の点、閉じ符号の最初の点を省略した変形第3指示符を使う。

4. 番号・記号を指示する時の書き方

(1) ~ (5) の中から

1 5 ノ ナカカラ

ア. ~ エ. のうち

ア エ ノ ウチ

(ピリオドの後に助詞がくるので1マスあけ)

文の()に当てはまる

ブンノ ニ アテハマル

空欄ア. に当てはまる

クーラン ア ニ アテハマル

{ } の選択肢の中から

センタクシノ ナカカラ

下線ア. について

カセン ア ニ ツイテ

— 線イの「それ」は

ボーセン イ の 「ソレ」ワ

文中の下線のついた

ブンチューノ ツイタ

ブンチューノ ツイタ

下線、 をわかりやすい言葉で

1 2 ヲ ワカリヤスイ コトバデ

次の()には年号を、には人名を

ツギノ ニワ ネンゴヲ、 ニワ ジンメイヲ

次の文の(ア) ~ (ウ)には後のA群から選び、 ~ には言葉を入れなさい。

ツギノ ブンノ ア ウ ニワ

アトノ グンカラ エラビ、

1 3 ニワ コトバヲ イレナサイ。

ツギノ ブンノ ア ウ ニワ アトノ

グンカラ エラビ、 1 3 ニワ

コトバヲ イレナサイ。

5. 正誤を問う問題は、「マル」「バツ」と書く。 ×の印は使わない。